

鬼怒川温泉駅前再整備検討市民委員会事前送付資料の内容に係る ご意見・疑問等 結果

事前の意見照会の結果、3名の委員と山本康友総合アドバイザーからご意見、ご質問を以下のとおりいただいた。

【駅前に整備する機能について】

- ・日帰り温泉施設の整備は、周辺活性化の為に是非とも誘致願いたい。また、鉄道利用者に限らず幅広く集客を行うため、近隣に十分な駐車場の整備が必要。
- ・施設整備後のランニングコストがまかなえるよう、施設機能を再考することが不可欠。
- ・家族連れや外国人、旅行客も入りやすい施設、旅の醍醐味となる地元の名物が楽しめる施設などを検討してはどうか。

（市の考え）

- 日帰り温泉施設の整備は、ポテンシャル調査の結果から、賑わい創出に寄与すること、また、整備にあたっては、駐車場についてもその必要性が提起されている。このことから、基本方針において両施設の整備の検討を盛り込んでおり、令和7年度に整備基本計画を策定する中で具体的な整備内容について整理していきたい。なお、駐車場については、既存の近隣駐車場の利用状況を見極めたうえでの検討としたい。
- ランニングコストの低減に向けては、収益が期待できる民間機能を併設することで進めていきたい。このためには、様々な人々が集える施設整備が必要不可欠であり、市民委員会のご意見をいただきながら、具体的な民間機能の内容を定めていきたい。

【施設整備に係る予算について】

- ・施設整備の検討にあたっては、まずは国の補助金などの財源を確定したうえで、現実的な予算額を見極める必要がある。予算が確保できなければ、ポテンシャル調査の結果にある「公的機能（温浴機能あり）＋民間機能」の施設整備は現実的なものとならない。

（市の考え）

- 財源については、公共施設の集約化・複合化事業について適用される地方債の利用を前提としている。また、市の財政状況も考慮し、国庫補助事業のメニューで該当するものがあれば、積極的に活用したい。
- 具体的な事業費については、整備基本計画において、整備の概要を定めたうえで、試算することとしている。
- 整備に係る全体事業費については、市の財政状況を見極めたうえで確定していくが、区域の賑わい創出や将来のランニングコストの削減の観点から、「公的機能（温浴機能あり）＋民間機能」の整備については堅持していきたい。

【施設整備に伴う地元への影響について】

- ・駅前への賑わい創出にむけて、商業施設や駐車場の整備は必要だが、駅前商店街に悪影響を及ぼさないよう十分な調整が必要。

（市の考え）

→商業施設に限らず民間機能の具体的な内容は、整備基本計画を策定する中で、駅前商店街関係者のご意見も重視し検討を行っていききたい。加えて、施設整備後も周辺地域の活性化に向け、地元関係者との連携強化が必要となることから、整備区域の有効活用に向けて「プラットフォーム（協議会等）」を設けることを方針に盛り込んだ。

【駅前広場を含む駅前全体について】

- ・週末に駅前を通行止めにしてイベントを行うなど、工夫の余地はまだあり、検討していききたい。

（市の考え）

→鬼怒川温泉駅前の再整備は、賑わいの創出や地域振興を目的としており、効果的なイベントの開催など多様な取組が必要と捉えている。このため、駅前広場についても一定の整備を考えており、整備後の運営体制も含め今後検討していく。

【藤原図書館について】

- ・他の市有施設への統合が検討されているが、利用者の利便性を考慮すると、駅近の立地が望まれるのではないかと。
- ・仮施設へ移転後、再度市有施設に統合するのであれば、当初から行政センターへ規模を縮小したうえで併設するか、または行政センター敷地内に新設する考えはあるのか（敷地内に余地がある場合）。

（市の考え）

→藤原図書館については、他の市有施設との集約化・複合化を基本とし、立地条件だけでなく、教育的な観点からも統合の対象とする施設を選定していききたい。行政センターへの併設は現時点で困難であると考えているが、行政センター敷地内への新設は、選択肢のひとつとなる可能性がある。

→具体的な整備内容やそれに係る事業費について、いくつかの整備案をお示しし、基本計画策定の中で整理していききたい。

【山本総合アドバイザーからの意見(民間事業者の誘致について)】

- ・ポテンシャル調査では厳しい結果となったが、幅広い事業者から民間提案を募り、提案のあった事業者負担のない事業のトライアルをさせることで、全く異なる分野からの応募が期待できるかもしれない。
- ・市から市内や近隣の事業者積極的に売り込みを行うなど多種多様な取組が必要なのではないかと。